

「評価」欄の「A～D」…A（達成できた）・B（だいたい達成できた）・C（あまり達成できなかった）・D（達成できなかった）

学校教育目標	中・長期的目標	総合評価	
1. 真理と学問を愛し、豊かな知性に基づいて正義と道徳とを重んずる精神を育成する 2. 清純高潔な品性と豊かな趣味とを育成する 3. 自分を理解し愛するとともに、自然及び他人に対する深い理解と愛情とを養う 4. 勤労の価値を自覚し、積極的に活動する人間育成に努める 5. 健康な身体と明朗で寛容な態度を養い、何事にも全力を尽くせる人間形成に努める	1. 安心して学校生活を送れる環境 2. 基礎学力の定着を重視した進学校 3. クラブ・生徒会活動で自己を生かせる学校 4. 地域に開かれた学校	本校では中・長期的目標および本年度の重点目標を設定し、その目標達成に向けて取り組んできた。目標は概ね達成されたが、多くの課題も残された。 ・毎時間の校内巡視や定期的な頭髪指導・あいさつ運動は一定の成果を上げたが、交通マナーの面では課題が残った。悩みを抱えている生徒に対しては家庭との連絡を密にし、外部機関とも連携しながら指導していく必要がある。 ・学習面では、進路実現に向けて平常・夏期・春季・土曜補習や各種検定の実施などを充実させることができた。また、新たな取り組みとして学習合宿を実施した。基礎学力の定着のために更なる補習の充実、カリキュラムの検討が今後の課題である。 ・地域に開かれた学校づくりの一環として、校外清掃や公開講座、住民生徒懇談会、PTAと生徒との環境整備活動を行うなど、新たな試みを定着させようとしている。今後は更にメディアを活用して本校をPRしていきたい。 ・本年度は学校運営委員会を設立し、本校の将来を見据えた具体的な話し合いを進めた。新たな取り組みとしての「授業アンケート」や「確認テスト」の実施は、教職員や生徒へのよい刺激になった。今後も長期的な視点での検討を進めていきたい。 来年度は、全職員が共通認識を持った上で計画的に目標実現に向けて努力していきたい。	
	本年度の重点目標	評価（成果と課題）	A～D
	1. 基本的な生活習慣の定着を図り、集団生活における態度、行動を養う。	定期的な校舎内外の巡視や昼の立ち番は問題行動の減少につながった。また、頭髪指導や遅刻指導、生徒会と協力して行ったあいさつ運動も一定の成果を上げた。しかし、通学時における自転車の乗り方や交通マナーが低下しており、今後は特に、交通安全のル・ルやマナ・の向上に重点を置いて取り組んでいく必要がある。来年度においても担任・教科担任・係が連携を密にし、家庭とも連絡をとりながら継続的に指導を行って行きたい。	B
	2. 他人への思いやりやルールを守り、健全な社会人としての態度を育てる。	毎時間の校内巡視はいじめや盗難等の問題行動の予防につながっている。貴重品の管理や部室の管理については、様々な機会を通して注意を喚起していきたい。また、反省指導後の生徒や悩みを抱えている生徒に対する指導の重要性が増してきている。養護教諭やスクールカウンセラー、特別支援教育コーディネーターとの連絡を密にとり指導にあたっていきたい。今後も全職員が共通認識を持った上で指導を心がけていきたい。	B
	3. 生徒の希望する進路実現を図るため、多様な学習環境を整えて学力の向上を目指す。	教育課程改編によって、実態にあった授業に近づけた。英語・漢字・数学検定を実施することで学力定着の身近な目標が設定できた。東進学舎、学習指導委員会を中心に平常・夏期・春期・土曜補習と学習合宿を充実させることができた。休業中に学習室を確保して自学自習を促せた。基礎学力定着のために月曜「確認テスト」を始動させることが出来た。今後、家庭学習の充実とセンター試験に耐えうる学力をつけるための具体的な手だてを講じる必要がある。	B
	4. 「住民生徒懇談会」と「保護者職員生徒懇談会」を充実させていく。	10月に須坂市の「携帯電話活用講座」に協力した。区長さんの要請を受け、11月には旧執行部が学校周辺の落葉片付を行った。文化系クラブに続き、運動系クラブによる旧部役所を活用した地域交流も起こりつつあるので、積極的に支援していく。保護者の「要望とともに自らも改善努力を」との助言を受け、2月には新執行部が3年生を送る意味もこめて教室壁の塗装を行った。来年度当初には、生徒と担当職員による施設関連の懇談会を充実させたい。	A
	5. 全校生徒に対して委員会、クラブの活動を宣伝し、意欲的に参加してもらおう。また、活動の様子を地域にもPRしていく。	旧生徒会（現3年中心）においては、執行部通信・須坂東高新聞・「昼のラジオ」放送・生徒会ホームページでの対話など、メディア面での活性化が目立った。新執行部（現2年中心）でも執行部通信の紙面を刷新するなどの工夫を今後とも続けていく。また、これらの印刷物を月2回の回覧板で地域にお知らせできるよう、地域役員の方々との連絡を密にするよう努力したい。	B
	6. 文教地区を利用した小中高の連携。	囲碁部の日常活動に小学生が5人参加してはいる。しかしながら、学校全体がこの目標達成のために何かを試みるという気運にはなっていない。重点目標の4や5とも関連することであるが、文教地区に位置するという地の利をクラブレベル・教科レベルでどのように利用し生かせるかが本校の特色に係わる大事な課題であると改めて認識する必要がある。	C

分掌	評価の項目	評価の観点	評価(成果と課題)	A～D	改善点・向上策
教務	本校の中長期目標(「安心して学校生活を送れる環境」「基礎学力の定着を重視した進学校」「クラブ・生徒会活動で自己を生かせる学校」「地域に開かれた学校」)の実現をはかる。	各係・委員会との連携を取るなど、学校全体を見渡し、中長期目標が実現できるよう配慮・采配することができたか。	教務・生活指導・進路指導・生徒会はそれぞれ4つの目標を意識し活動している。しかし、各委員会・学年・教科、更には個々人までが学校目標実現に向けて意図的計画的に動いているという段階にまでは到達していない。	B	本校の中長期目標の4本柱を「個人」「係」「委員会」「教科」「学年」「クラブ」がどれだけ意識して日常の活動に当たっているかが肝要である。こうした目的意識や使命感が隅々まで浸透し、各活動団体において根付くように工夫し努力していく必要がある。
	授業・考査を大切にしている取り組み。	授業アンケートを実施・フィードバックし、よりよい授業作りをすることができたか。考査1週間前の考査準備体制作りができたか。	本校としては初めて、年2回の授業アンケートを全教科科目で実施した。生徒からの意見や感想が少なからず教職員の刺激になり、今後の授業のために参考になったことは評価できる。また、教師・生徒ともに授業時間の開始終了時間を守る意識が定着したことも評価できる。	B	アンケートは無記名がよいという生徒の割合が高いので、今後議論の中で決定したい。また、生徒教職員からのアンケートに関する意見要望等を参考に改善すべきは改善し、より意義のあるアンケートにしてゆきたい。また、アンケート結果が教師一人一人にとって有効なものとなることを期待するだけでなく、実際に有効に動くようにするにはどうすべきかについて考えてゆきたい。考査後の追試については、その扱いや比重等が教科によってまちまちであると言う点は改善すべき課題である。
	教科担任・HR担任との連携。	欠課・遅刻・早退連絡票や公欠願いが確実に活用されているか。遅刻・欠課・早退の生徒をHR担任が把握し、その日のうちに保護者と連絡を取ることができたか。	欠課・遅刻・早退連絡票や公欠願いは十分に活用されている。しかし、一部あるいは一時的に使われていないことがあった。該当の生徒に関して、その日のうちに保護者と連絡を取るという点はおおむね実施されている。	B	教科担任とホームルーム担任との連携がうまくいかず、食い違うということがないように更に連絡票活用の徹底を図りたい。また、出欠連絡票の活用が自己目的化しないよう、教科担任・担任・生徒・保護者とのコミュニケーションとそこから生まれる協力体制を大切にするとその本来的な目的を見失わないような工夫が課題である。
	学校開放・地域交流を積極的に行う。	体験入学を充実させ、須坂東高校を中学生にアピールすることができたか。公開授業を計画的に実施できたか。須坂東の魅力あるホームページ作りができたか。「ヨガ講座」「囲碁講座」「書道(書初めの頃)の出前講座」を開講するなど地域を対象に交流を積極的に行うことができたか。	体験入学はおおむね成功裏に終わった。公開授業は保護者懇談会期間を利用し実施した。ホームページに関しては、特に本年度業者を入れて表紙をリニューアルし、内容も充実したものに作り上げることができ、外部からの評価も高い。「ヨガ講座」「囲碁講座」ともコンスタントに5、6人の参加があり軌道に乗つつある。囲碁部員による地域との交流対局では書道部の作品が発表されるなど積極的に展開され始めている。	B	課題としてPR不足が挙げられる。積極的にメディアを活用し地域との交流のために、須坂東のよいところを理解していただく努力をしなければならない。野球部や生徒会の協力体制もあり、地域に認められ愛される学校作りが実現に行われていることは確かである。その精神を更に継続発展させてゆきたい。公開授業は英語・数学・社会・理科の教科が積極的・計画的に実施し、互いの良い刺激になった。新年度は更に多くの教科に意図的計画的に実施してもらい職場の同僚性を高めながら地域に開かれた学校作りを目指したい。
進路指導	進路指導方針	3年間を見通した進路計画を立てて指導ができてきているか。	2年までに明確な進路目標を設定して基礎学力を定着させ、納得のいく進路実現が出来るように各学年が前年度を参考にして「年間進路指導計画」を立てた。	B	学校全体として情報の共有化を図り、問題点を改善すると共に良いところが踏襲出来るような学年間の連携を強化する。また、センター試験に耐えうる基礎学力が定着するシステムを構築したい。
	情報の発信	生徒のニーズに応じた情報を提供できているか。	的確な進路選択が出来るように情報提供した。具体的には「進路の手引き」作成、各教室に「進路情報誌」配置、「卒業生と語る会」で生の情報を提供した。「進路資料室」と「掲示板」の整備・充実を努めた。進路意識啓発のために「進路室だより」「学年進路通信」を発行した。	A	生徒に必要な資料の整備と充実、生徒が利用しやすい「資料室」づくり、「掲示板」の見やすさを工夫する。進路意識が啓発されるような「通信」の工夫と「進学相談会」への積極的参加に努める。
	進学・就職指導	進路保障の手立てが取られているか。	受験に対応できる基礎学力を定着させるため、通常補習、夏期補習、春期補習を実施。2学年では学習合宿を実施した。「伸びる力養成講座」に参加してセンターレベルの刺激を受けた。1、2年で「東進学舎主催大学・短大講座&専門学校体験学習」など「進路ガイダンス」を充実させて、活用できる「進路希望調査」を確立する。9月就職内定者は昨年を上回った。	B	進路意識向上のため、「進路講演会」「進路ガイダンス」などをタイムリーに企画し、「進路希望調査」と「生活実態調査」を融合させて進路意識が啓発できる有機的な調査とする。基礎学力を充実させるために、学習指導委員会との連携を強化してシステム化を図る。就職に関しては生徒にあった職場の斡旋に心掛ける。
	キャリア教育の推進	生徒の職業観の育成を積極的に行っているか。	早く出せ修行「ジュニアインターンシップ」、「1日看護体験」に多数参加した。1学年で「仕事レポート」、2学年で「職業理解のための進路説明会」、夢のデザイン塾「キャリアデザイン出前講座」、3学年で「キャロットDTP」によるパソコン講習会を実施した。	A	キャリア教育の意義と必要性を学校内外にアピールする。「進路指導計画」へのキャリア教育配置を適切に行う。「就業体験」を通して「職業観」を醸成する。
進路指導	保護者との連携	保護者への情報提供や相談体制がとれているか。	「PTA総会」や「学年PTA」で「保護者向け進路講演会」「進路説明会」を実施した。1学年で「東進学舎主催職業講話」を実施した。	B	「保護者懇談会」や「PTA行事」などで保護者のみなさんが進路室を利用できるようにする。保護者向けに情報発信をする。
	外部機関との連携	ハローワークや大学・短大・専門学校及び予備校との連携がとれているか。	「ハローワーク」や須坂市工業課「就業支援センター」と連携して「職場体験」や「職場見学会」を実施した。リクルート、エイビ通信、JSコーポレーション、昭栄広報、ライセンスアカデミー、さんぽう、日本ドリコム、ベネッセコーポレーションとの連携をした。	B	「職場見学会」へ積極的に参加する。大学・短大との連携を強く、出前講座を充実させる。外部機関と連携して役立つ情報の収集に努める。

分掌	評価の項目	評価の観点	評価(成果と課題)	A～D	改善点・向上策
生活指導	基本的な生活習慣の確立	頭髪・挨拶・遅刻指導などを通して、生徒の基本的な生活習慣の確立を促すことができたか。	挨拶については、生徒会の取り組みもあり、かなり良くなってきている。頭髪指導については学年を中心として、各学期の前後や行事前などに定期的に指導を行い、全般に改善されてきている。遅刻を繰り返す生徒へは、その都度家庭と連絡をとり、面談などで改善を促していく必要がある。また、登下校時における自転車走行や歩行のあり方については、依然として問題点が多く指導や対策が必要である。	B	頭髪・遅刻指導については、個人指導に力をいれ、担任・教科担任・係が連携を密にし、家庭とも連絡をとりながら速やかに対応していく。また、今後は特に、通学時における自転車の乗り方など、交通安全のルールやマナーの向上に取り組んでいく。外部講師による交通安全講話等を計画したい。
	いじめや盗難等の問題行動を起こさせない学校環境作り	校内巡視や昼の立番指導が問題行動の未然防止や職員間のスム－ズな連携に生かされているか。	昼に外出する生徒はかなり減少してきてはいるが、まだ外出届を出さずに、無断で外出する生徒がいるので、指導を徹底したい。また、校内巡視はいじめや盗難などの問題行動の予防につながっている。生徒の貴重品への管理意識が希薄で、今後とも指導の継続が欠かせない。近年は人間関係の構築が苦手な生徒が増えてきており、対応を検討していくことが大切と思われる。	B	貴重品の管理については、指導を継続していく。行事日や集会の折など、教室や部室の見回りを強化していく。いじめ・不登校問題については、入学後早い段階で養護教諭やスクールカウンセラー・特別支援教育コーディネーターとの連携を密にとり、指導していきたい。
学習指導	授業内容の工夫	生徒の実態や希望進路をふまえた教材選択や授業内容であるか。生徒が積極的に学習活動をおこなっているか。	概ね適切な教材を使用している。生徒の実態をふまえた基礎学力が定着する授業内容になるよう各教科とも工夫している。また、授業公開などを通して授業内容の工夫を深めることが出来た。授業アンケートを実施し、生徒が積極的に学習活動を行うよう働きかけている。	B	教材選択・授業内容については、基礎学力の定着をめざし各教科とも引き続き研究していく。
	検定の実施	生徒の実態や希望進路をふまえた検定が実施されているか。	放課後・土曜日補習などを課しながら、各種検定を実施した。総合的な学習の時間の一環として2学年を中心に検定受検を積極的に働きかけ、多くの生徒が各種検定に臨んだ。	A	2学年の取り組みを総合的な学習の時間に位置づけ、更に発展させていく。
	補習の実施	生徒の希望進路や学力定着の要望に適切な補習が実施されているか。	生徒の希望に即し、各教科で実施している。3学年は朝・土曜日を含めた補習をセンター試験後も実施した。夏期補習は全学年で実施し、2学年では夏休み当初に学習合宿も実施し、成果が見られた。1・2学年は3月補習を計画している。定期テスト、夏休みには学習室の開放も行った。	A	補習の計画・内容については見直しを進めながら、更に効果的な実施を考えていきたい。3学年の補習は2学年後期からの効果的な継続やセンター試験対応の補習の充実を考えていく。2学年で実施した学習合宿は、来年度も継続したい。冬季補習の実施も考える。
教育課程	教育課程の見直し	学校の将来を鑑み、生徒の実態に対応した教育課程を検討できたか。	平成21年度入学生対応の新教育課程表作成の準備をすすめている。各教科ごとに単位数の見直しを検討しているところである。委員会内は全体的に変革に向け前向きな姿勢を示しており建設的な発言が多く、円滑な運営ができたと考えられる。	B	平成20年7月の学校要覧作成とその後の学校説明会まである程度の骨子を提示できるよう暫時努力する。
	現行の教育課程の選択科目の設定と方法	生徒の進路に応じた適切な選択がなされているか。選択帯編成が生徒のニーズに適合しているか。	平成20年度3学年において今までの文理分けを軸に、ある程度の類系制を敷いてパターン化を図った。また20年度2年生においても文・および文において委員会内で審議を終了上で、委員会案として提案できた。	A	平成21年度3学年においては新たにいくつかの変更が提案される予定である。今後はそれに即した各教科総授業時間数等の検討を行う。
生徒会	生徒間の相互理解	執行部会(東高祭係長会)が意見を広く求め、生徒が前向きに応じる関係ができたか。クラブ活動の努力や成果を伝えあい、たえあう機会を持つことができたか。	4月の学校生活要望アンケート、9月のクラブ要望調査をその後の話し合いにつなげることができた。東高新聞は、精力的な取材で充実した報道になった。定着しつつある放送壮行会は、耳目を集める演出が今後も課題となる。	A	生徒の意見・要望を随時取り上げるため、生徒会へのメール(QRコード)コーナーの活用をはかりたい。発信だけでなく受信、さらには個々の意見との対話を公開できるようにするのが望ましい。
	生徒間の協力態勢	執行部会(東高祭係長会)がその内部で、クラスやクラブに対して計画を明示し、積極的な参加を促すことができたか。	欠席が目立つ委員会(係会)があったが、その後の連絡を徹底して運営できた。生徒会活動を週刊で広報する執行部通信は、役員のリレーコラム連載もあって、クラスに掲示されつつある。生徒間ではメール連絡網を活用する場面が目立った。	B	委員会(係会)の開催は、前日までに掲示・放送等を用いて周知する。担任の協力を頂きながら、委員に通知を届けるようにしたい。
	職員から生徒への支援態勢	生徒が職員に目的を相談し、職員がそれを受けて連絡を取り合い、活動後には生徒が自ら反省を報告する関係ができたか。	相談し、連絡を取り合って実行することはできたが、反省の仕方に課題が残った。口頭で反省を述べるだけでは相手に伝わりにくく、後任への引継ぎも難しい。	B	活動後に反省を行う際は、幅広く意見を集め、反省原案を示して協議する等、一手間かけることが必要となる。
	生徒会活動の見直しと改善	行事ごとに反省を行い、他校の実践にも学んで、より良い生徒会活動を目指せたか。	行事終了後には執行部反省用紙に記入し、行事統括生徒が文書化して反省会を行った。市内四校生徒会との協同は、個人的な交流のみで具体化していない。	B	市内四校との協同の前に、東高独自の地歩を築く事が必要と思われる。地域住民から示唆を頂いた、旧上高井郡役所の活用を相談する中で、クラブを中心とした活動が広がりつつある。
	保護者や地域とも連携した、自らの学習環境を整える姿勢の育成	生徒会として学校施設やその周辺環境整備活動を行うことができたか。保護者職員生徒懇談会や住民生徒懇談会を通じ、生徒会のあるべき姿について考え、行動することができたか。	6月にPTAと協力し、噴水周辺のサツキ植替えを行った。「住民からの東高生への要望」とそれに続く「東高生から住民への答え」の2つのアンケートでは回答数も増え、これを資料とした住民生徒懇談会は住民の強い支持を得た。また、保護者職員生徒懇談会の話し合いを受け、生徒会役員で教室の壁塗りを行い、保護者の評価を得た。	A	2つの懇談会を苦情承りや無いものなだりの場としない為、意見の相違を粘り強く慎重に埋めていく対話の姿勢を常に思い起こしていく。「任せてもらえる・頼りにされる」校内外の諸活動には、積極的に参加する。次回住民生徒懇談会は旧郡役所を会場とし、地域住民にも公開して実施する。

分掌	評価の項目	評価の観点	評価(成果と課題)	A～D	改善点・向上策
美化	教室内の美化	毎日の清掃が行われているか。	一般的に良く出来ているが、授業終了後の黒板拭きの徹底が必要である。	B	黒板拭きクリーナーの適正な補充および担任と連携をとりながらクリーナーの定期的な清掃を行っていく。
		ゴミの分別が行われているか。	種類別のゴミ箱により、良好に行われている。	A	特になし。
		清掃用具は充実しているか。	普通である。	B	不足の用具はその都度補充を行っているが、定期的な点検が必要である。
	校舎内(教室以外)の美化	毎日の清掃が行われているか。	一般的に出来ているが、階段、廊下、トイレ清掃でやや不十分な所がある。	B	月例の大掃除で不十分な箇所を補って行く。
		ゴミの分別が行われているか。	良好である。	A	特になし。
		清掃用具は充実しているか。	普通である。	B	不足の用具はその都度補充を行っているが、定期的な点検が必要である。
	校舎外(校地内)の美化	毎日の清掃が行われているか。	十分とはいえない分、学年清掃で補う事が出来ている。	B	毎日の清掃時間内では、手が行き届かない箇所については、学年一斉清掃等を活用し、計画的に行っていく。
		ゴミの分別が行われているか。	良好である。落ち葉等をゴミとして排出するのではなく、堆肥化等の処理方法を関係部署と検討し、年度途中より、実施することが出来た。	A	特になし。
		清掃用具は充実しているか。	普通である。	B	不足の用具はその都度補充を行っているが、定期的な点検が必要である。
学校評議員会	家庭・地域との連携	本校は地域にとって身近な存在として感じられているか。本校の教育活動全般に関する情報が、家庭・地域に十分に伝わっているか。	地域に開かれた学校作りということの一つの柱に据え、特に生徒会が牽引的存在として地域との対話を積極的に試みてくれた。また、野球部や囲碁講座・ヨガ講座等がこの目標に沿った活動を地道に行っていることが次第に功を奏してきている。	B	今後は更にクラブや教科レベルでも地域との連携を模索するよう運営委員会を中心にアイデアを提案してゆきたい。
	学校評議員制度	本校の学校評議員の運営は、教育活動並びに学校運営の向上に有効に機能しているか。	第1回学校評議員会を7月14日(土)に第2回を2月26日(火)に開催した。評議員の方々との相互理解と協力の体制作りを行うことができた。特に第1回は昨年度に続き、文化祭一般公開と囲碁部員による地域との交流対局の日に合わせて開催し、普段なかなか目にすることのできない本校生徒の生き生きした姿をご覧いただく機会をつくることが出来た。	B	学校評議員の方々には出来る限り頻繁に学校に足を運んでいただき、実際を検証して頂いた上で、更に具体的に建設的なご意見をいただけるようにしたい。好意的な評価に甘んずることなく営為努力することが大切である。
1学年	生活習慣の確立	欠席・遅刻・頭髪・服装等の指導ができたか。	生徒の自覚もあり、ある程度の成果は得られたが、一部の生徒で粘り強い指導(頭髪・服装)の必要性を感じる。	B	各学期で2回、また長期休業明けでの一斉点検・指導を考えたい。
	学習に対する取り組み	日々の授業を大切にすると同時に、家庭学習をする指導ができたか。	授業に対する取り組みにおいては、携帯電話を取り上げられる生徒も若干名いたが、さほど問題はなかった。しかし、家庭学習の定着は不十分であり、今後の課題である。	B	月曜日の確認テストや木曜日の総合的な学習の時間の創意工夫を考えたい。また、国語・数学・英語を中心とした家庭学習の定着に取り組みたい。
	特別活動への取り組み	部活動・生徒会活動への参加指導ができたか。	退部の生徒が思った以上に少なく、今後の継続が望まれる。また、生徒会活動においては、やや興味・関心に欠け充分とは言えない。	B	HRで生徒会の広報を読み合わせるなどの工夫を考えたい。
2学年	社会常識	基本的な生活習慣の確立をめざすとともに、社会常識やルールを守らせる指導ができたか。	欠課、遅刻をする生徒は全体的には少なくなってきている。更にあいさつができる生徒が増えてきていて学年全体としては落ち着いている。	A	今後この方向を継続することにより社会常識を身に付けさせたい。
	学習に対する取り組み	自ら学習環境を整え、学習に取り組む指導ができたか。毎日の授業を大切に、家庭でも自ら学習する姿勢を育てる指導ができたか。	授業に遅れていく生徒や期限までに提出物が出ない生徒がいくらかみられる。また学習環境に対する意識が低く、机の中など身の周りの整理・整頓が不十分な生徒が見られる。検定試験や校外模擬試験の取り組みを通して積極的に学ぶ生徒が増えてきている。	B	今後、身の周りの整理・整頓をするようたびたび注意を喚起していきたい。特に欠課が多く提出物を出さない生徒については本人にたびたび注意を促すと共に、家庭にも連絡を取り協力を求めたい。
	積極性・責任感	積極的に部活動・生徒会活動に参加させ、個性を伸ばし、責任感をもたせる指導ができたか。	新しく部活動や生徒会を引き継ぎ、積極性や責任感が少しずつ見られるようになってきた。	A	積極性や責任感が見られるようになってきているので協力をしつつ見守りたい。
3学年	学校生活・社会性	最上級学年として責任ある学校生活を送り、社会また上級学校に踏み出すための心構え、マナーを自覚させることができたか。	就職・進学指導を通じて生徒一人一人に細かく指導できた。生徒指導上の問題は非常に少なかった。授業、学校生活ともに落ち着いて一年間であった。2学期に入り進路が決まる生徒が出て全体に気のゆるみが見られたがすぐ学年集会を開き注意を喚起した。ただ、少数ではあるが欠席・欠課の多い生徒の対応には大変苦慮した。	B	授業の欠課の多い生徒は教科担任、担任で充分連絡をとり、本人、保護者に早めに伝えて注意を喚起する。
	進路実現	学力の定着と学習習慣の確立を通して、生徒が希望する進路が実現するよう指導ができたか。	補習は計画的に2月まで実施できた。校外模試は計画通り実施。多くの進学希望者が受験した。センター試験は前年度並みに80数名が受験した。また一般受験で進学を目指す生徒が増えた。県看護大、岩手大、県短大、立命館大、公務員等に合格者が決まった。	B	推薦進学希望者が多いので、指定校推薦者にセンター試験を義務付けることは今後も継続する。またそのためにセンター試験受験者には補習授業等で支援していく。今後は一般入試受験者も視野に入れた学習指導が必要である。
	生徒会活動・部活動	生徒会や部活動での指導を通じて、リーダーとしての自覚を促すことができたか。	生徒会活動の総決算とも言うべき東高祭においては、生徒会長をはじめ執行部の役員はもちろんのこと各係長および委員も企画、立案、実行に熱心に取り組み、好評を得ることができた。	A	概ね良好であったと思われる。